



2 1 中計の進捗について

2020年6月

証券コード：6741

 日本信号株式会社
NIPPON SIGNAL CO., LTD.

2 1 中計の進捗について

■ 2 1 中計の基本フレーム

重点 テーマ	未来を掴みとる力（成長力） の強化	稼ぐ力（収益力） の向上
重 点 課 題	<p>1 変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化</p> <p>▶自動運転への対応、セキュリティ分野強化 デジタル化への対応、海外基盤構築 等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業部再編・ O&M※ビジネスに向けた技術開発 等	<p>2 競争力あるQCD実現</p> <p>▶収益性の要である「設計改革」と国際事業の「事業構造強化」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 設計・ものづくりにおける工程整流化・ 設計改革(含むドキュメント標準化)・ 海外ものづくり体制整備 等
	<p>3 成長のための人材の育成・確保</p> <p>▶中計の実効性をリソース面での担保</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教育制度の見直し・拡充・ 設計人員増による設計リソース確保・ 働き方の多様化に対応した制度拡充 等	<p>4 持続的な企業価値向上</p> <p>▶企業価値向上に向けた経営基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none">・ SDG s 対応・ グループ再編(グループ内付加価値の最大化)・ グループガバナンス整備 等

※O&M : Operation & Maintenance/運用・保守

変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

■ 重点課題の取り組みの状況

重点 テーマ	未来を掴みとる力（成長力） の強化	稼ぐ力（収益力） の向上
重 点 課 題	<p>1 変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化</p> <p>鉄道のCBTC※・O&Mや清掃ロボットなどの開発・ビジネス展開に取り組むと共に、自動運転社会を見据えた各種実証実験・フィールドテストを実施。</p>	<p>2 競争力あるQCD実現</p> <p>設計効率化や生産・検査の自動化など継続的なQCD向上の取り組みを推進すると共に、グローバル対応力強化に向け、現地生産や新規サプライヤー開拓を推進。</p>
	<p>3 成長のための人材の育成・確保</p> <p>若手育成プログラムの拡充やグローバル採用の推進に取り組むと共に、テレワーク推進など働き方の多様化に向けた取り組みを実施。</p>	<p>4 持続的な企業価値向上</p> <p>板金製造会社の子会社化などによるバリューチェーン強化に取り組むと共に、日本信号の森づくりや鉄道まつり開催などSDGsやCSRに関わる活動を推進。</p>

※CBTC : Communication Based Train Controlの略。無線式列車制御装置。

変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

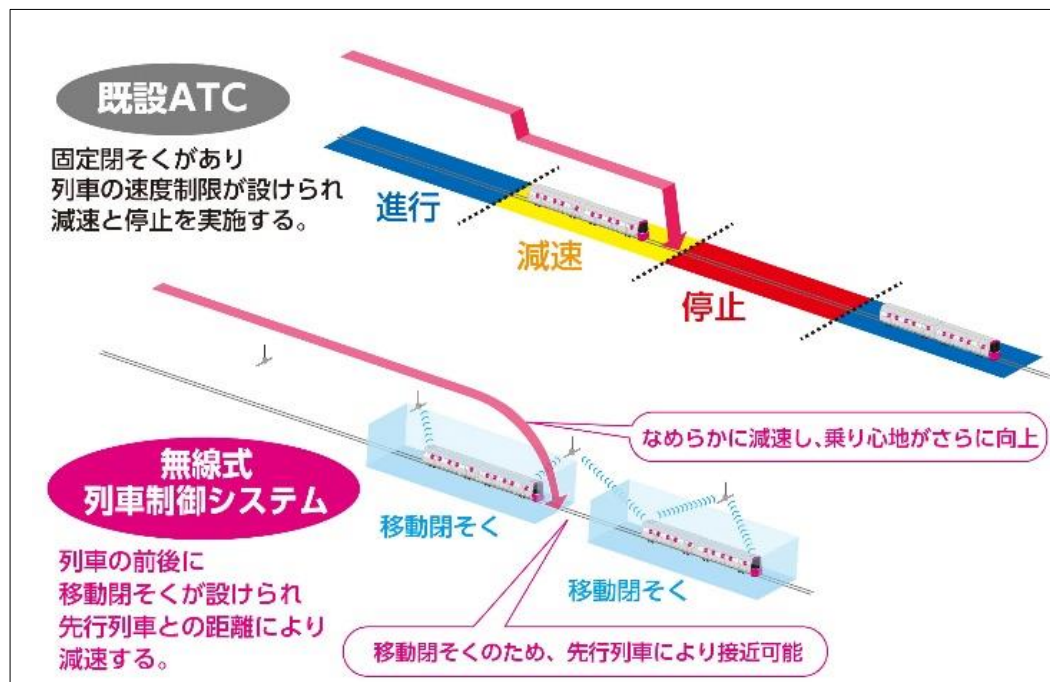


国内初！一社単独での無線式CBTCシステム全線一括受注

都営大江戸線全線の信号設備一式を受注。

海外で多数の納入実績がある当社製CBTCのSPARCS※を採用し、国内仕様に合わせ、既存設備との親和性が高く、更新しやすいシステムを構築する。全線開業は2027年度の予定。

※SPARCS : Simple-structure and high-Performance ATC by Radio Communication Systemの略。当社が開発した無線式列車制御装置。



変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



自動運転列車システムの実証実験に参加

自動運転列車システムを、九州旅客鉄道株式会社様と共同で開発。本システムは国内初となる在来線での自動運転システムであり、実用化に向けて大きな期待が寄せられている。



変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



沖縄都市モノレールの浦添延長区間が開業

延長区間において当社は、鉄道信号システム、旅客案内システム、駅務自動化システム、ホーム安全システムなどをトータルに提供。



変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



特殊信号発光機検知支援システムの試験導入

西日本旅客鉄道株式会社様との共同開発。

列車の先頭に設置したカメラ映像を画像解析にて特殊信号発光機の赤色点滅を検知し、運転士にアラーム発報を行う。鉄道業界における高解像度カメラを活用した踏切状態の検知・支援システムの開発・試験導入は本件が初めて。



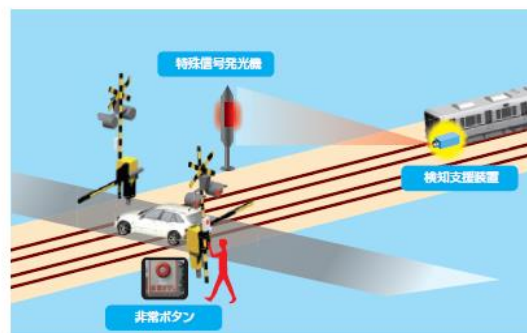
従来 踏切支障等により特殊信号発光機が発光した場合、運転士の目視により確認し、ブレーキ操作を実施していた。

本システム導入後

カメラで撮影した映像により

- ① 特発の発光を自動的に検知
- ② 運転士へ音声により注意喚起

特発発光の認知性を向上させ、踏切障害事故等の重大事象を未然に防止



運転士への通報の流れ



変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



自動運転社会の実現を見据えた各種実証実験に参加

自動運転の実現に不可欠な信号情報を扱うテクノロジーを持つ強みをいかして「すべての人にとって最適かつ安全な自動運転社会」の実現に向けた取り組みに参加。



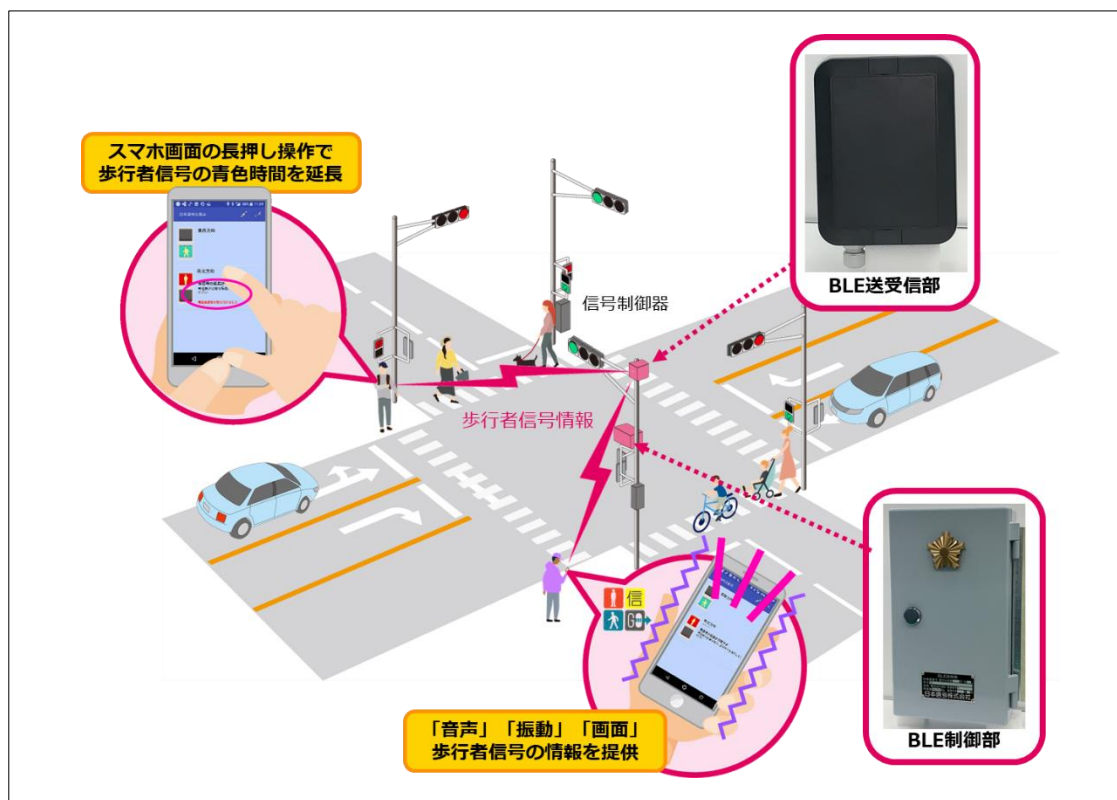
変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

16 平和と公正を
すべての人に



歩行者信号の情報を提供するアプリケーション「信GO！」

交通制約者の方々の暮らしが、より安心、快適になるように、歩行者信号の情報をスマートフォンに提供する、歩行者信号の情報を提供するアプリケーション「信GO！」を開発。



使用方法



実際のアプリ画面

変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



Osaka Metro様 次世代改札機実証実験への参画

2019年12月～2020年9月(予定)まで実施する次世代改札機の実証実験に参画。当社は堺筋線の動物園前駅北改札口に機器を設置し、QRコード認証および顔認証での判定をシンクライアント技術にて実施。



顔認証カメラ

変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



除菌・清掃ロボット「CLINABO CL02」を発売開始

CYBERDYNE株式会社製造の吸塵型清掃ロボットの販売を開始。オプションとして除菌剤噴霧器が搭載でき、次亜塩素水等を使用して駅や病院など公共空間をはじめとした様々な場面での除菌作業が可能。



変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



渋谷スクランブルスクエアに オフィスエリア機器・屋望施設用ゲートを納入

17階（オフィスロビー）と1階（防災センター）にスタイリッシュゲート12通路、カードホルダ回収機3台、来訪者予約受付システム1式（カードホルダ発行機3台、操作端末5台を含む）を納入。また、展望施設「SHIBUYA SKY」の入場ゲートとして、アミューズメントエントランスゲート3通路を納入し、オープンに合わせて稼働開始。



17階オフィスロビー

変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化

世界にビジネスを展開

28

の国と地域

慢性的な交通渋滞と深刻な大気汚染を軽減する「鉄道」の需要は、世界的に高まっています。日本信号は国内で得た技術力とノウハウを活かし、活躍の場を世界に広げています。



競争力あるQCD実現

■ 重点課題の取り組みの状況

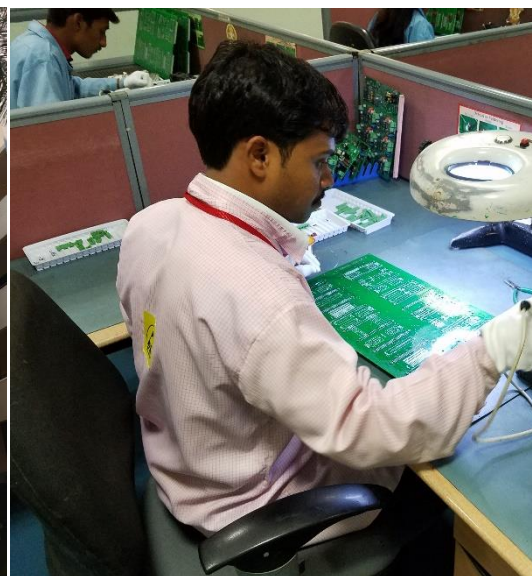
重点 テーマ	未来を掴みとる力（成長力） の強化	稼ぐ力（収益力） の向上
重 点 課 題	<p>1 変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化</p> <p>鉄道のCBTC・O&Mや清掃ロボットなどの開発・ビジネス展開に取り組むと共に、自動運転社会を見据えた各種実証実験・フィールドテストを実施。</p>	<p>2 競争力あるQCD実現</p> <p>設計効率化や生産・検査の自動化など継続的なQCD向上の取り組みを推進すると共に、グローバル対応力強化に向け、現地生産や新規サプライヤー開拓を推進。</p>
	<p>3 成長のための人材の育成・確保</p> <p>若手育成プログラムの拡充やグローバル採用の推進に取り組むと共に、テレワーク推進など働き方の多様化に向けた取り組みを実施。</p>	<p>4 持続的な企業価値向上</p> <p>板金製造会社の子会社化などによるバリューチェーン強化に取り組むと共に、日本信号の森づくりや鉄道まつり開催などSDGsやCSRに関わる活動を推進。</p>

競争力あるQCD実現 主要な取り組み

主要施策	2020年3月期の主な成果
設計・ものづくり効率化	①設計ドキュメントの標準化推進 ②ホームドア標準機的设计 ③生産・検査の効率化・自動化設備導入など
サプライチェーン再構築	①インドGGT社でのプリント基板試作 ②海外での新規サプライヤー開拓など



GGT社



成長のための人材の育成・確保

■ 重点課題の取り組みの状況

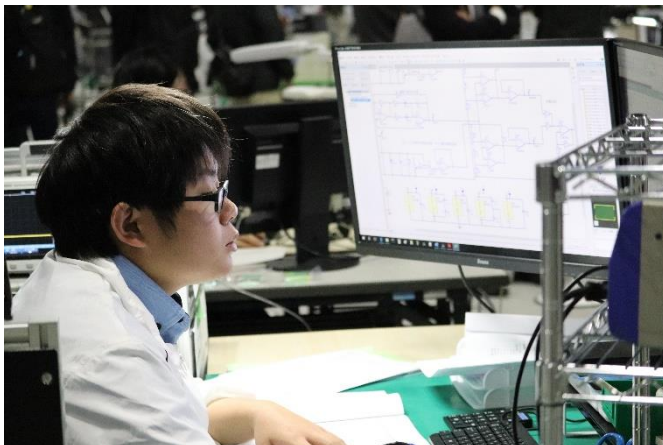
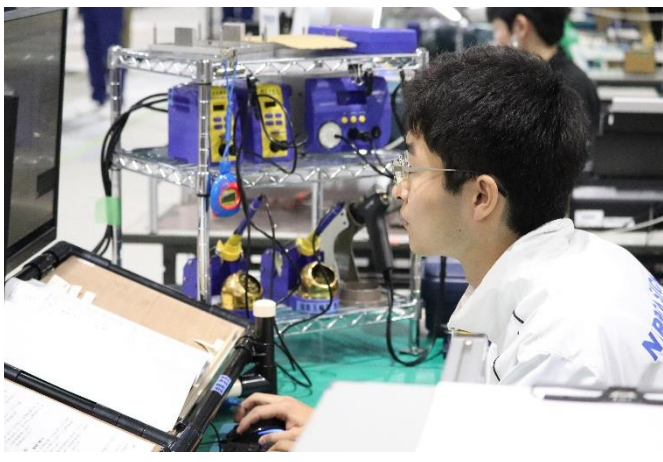
重点 テーマ	未来を掴みとる力（成長力） の強化	稼ぐ力（収益力） の向上
重 点 課 題	<p>1 変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化</p> <p>鉄道のCBTC・O&Mや清掃ロボットなどの開発・ビジネス展開に取り組むと共に、自動運転社会を見据えた各種実証実験・フィールドテストを実施。</p>	<p>2 競争力あるQCD実現</p> <p>設計効率化や生産・検査の自動化など継続的なQCD向上の取り組みを推進すると共に、グローバル対応力強化に向け、現地生産や新規サプライヤー開拓を推進。</p>
	<p>3 成長のための人材の育成・確保</p> <p>若手育成プログラムの拡充やグローバル採用の推進に取り組むと共に、テレワークなど働き方の多様化に向けた取り組みを実施。</p>	<p>4 持続的な企業価値向上</p> <p>板金製造会社の子会社化などによるバリューチェーン強化に取り組むと共に、日本信号の森づくりや鉄道まつり開催などSDGsやCSRに関わる活動を推進。</p>

成長のための人材の育成・確保



技能五輪全国大会に3名が出場

愛知県国際展示場をメイン会場として開催される第57回技能五輪全国大会に、当社から3名が出場。競技当日に発表されるプログラム設計、電子回路設計、製作、機器修理等の課題に挑戦。



成長のための人材の育成・確保



当社社員が「現代の名工（卓越した技能者）」を受賞

久喜事業所 品質保証部 池内俊雄が、令和元年度「現代の名工（卓越した技能者）」を受賞。鉄道信号保安装置の製品検査や改修・修理業務で培った技術や後進技能者の育成・指導に積極的に取り組んだ功績が評価され、厚生労働大臣より表彰。



表彰式



はんだ付け作業の様子

成長のための人材の育成・確保

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

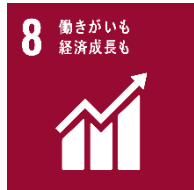


経済同友会主催のパラスポーツ運動会に参加

SDGsの担い手としてスポーツを通じた「人づくり」の推進を目的とし、当社から17名が参加。



成長のための人材の育成・確保



本社・営業部門では、テレワークを最大限活用するとともに、顧客サポートに努めた。一方、ものづくりに欠かせない一定数の社員が出勤が必要となる事業所においても、出勤率70%とし、接触の低減を図った。また、研修施設や独身寮を必要に応じてサテライトオフィスとして活用。



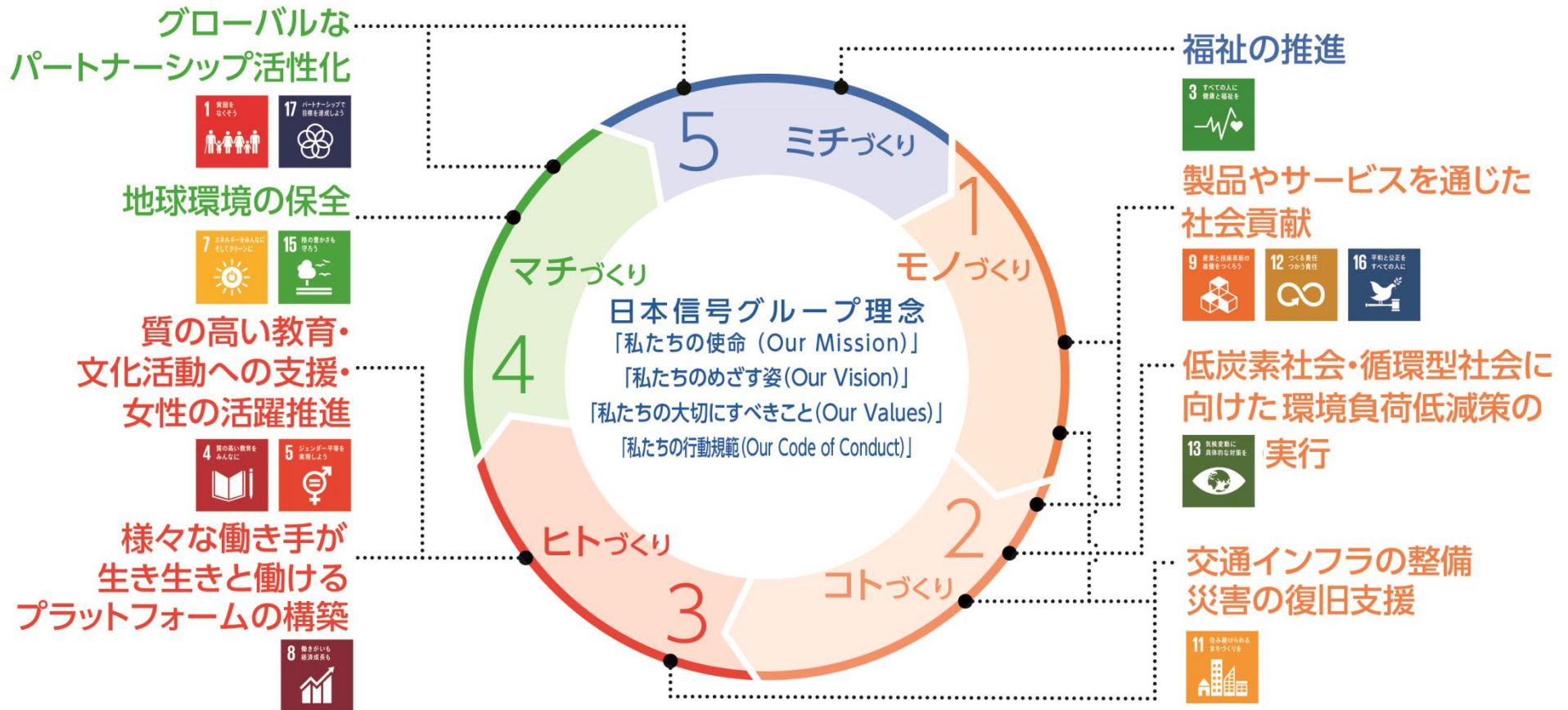
持続的な企業価値向上

■ 重点課題の取り組みの状況

重点 テーマ	未来を掴みとる力（成長力） の強化	稼ぐ力（収益力） の向上
重 点 課 題	<p>1 変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化</p> <p>鉄道のCBTC・O&Mや清掃ロボットなどの開発・ビジネス展開に取り組むと共に、自動運転社会を見据えた各種実証実験・フィールドテストを実施。</p>	<p>2 競争力あるQCD実現</p> <p>設計効率化や生産・検査の自動化など継続的なQCD向上の取り組みを推進すると共に、グローバル対応力強化に向け、現地生産や新規サプライヤー開拓を推進。</p>
	<p>3 成長のための人材の育成・確保</p> <p>若手育成プログラムの拡充やグローバル採用の推進に取り組むと共に、テレワーク推進など働き方の多様化に向けた取り組みを実施。</p>	<p>4 持続的な企業価値向上</p> <p>板金製造会社の子会社化などによるバリューチェーン強化に取り組むと共に、日本信号の森づくりや鉄道まつり開催などSDGsやCSRに関わる活動を推進。</p>

持続的な企業価値向上

当社は、「安全と信頼のテクノロジーを通じて、より安心、快適な社会の実現に貢献する」という日本信号グループ理念を実践する事業活動を通して、社会的価値と企業価値を両立させながらSDGsの達成をめざし、100周年、さらにその先の未来に向けて、進化してまいります。



持続的な企業価値向上



「日本信号の森」植樹を実施

創業90周年記念事業の一環として、栃木県県民の森（矢板市）内に「日本信号の森」を開設。開設初年度にあたる去年は、ヤマザクラの苗木2,700本を植える植樹イベントを開催し、社員の家族も含め、120名以上が参加した。

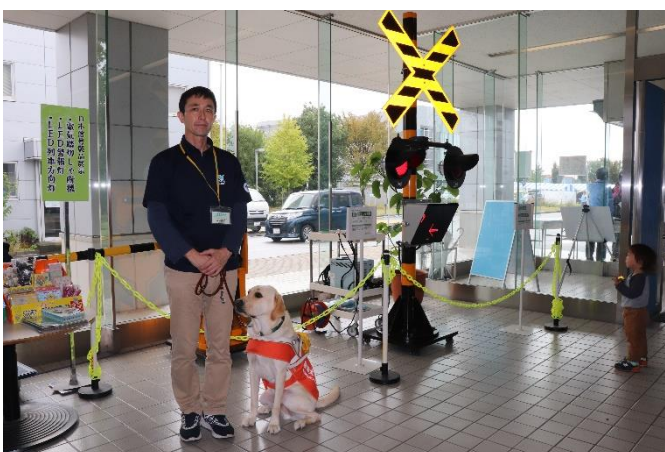


持続的な企業価値向上



第8回鉄道まつりを開催

久喜事業所で「第8回鉄道まつり」を開催し、柳家小ゑん師匠による鉄道落語寄席、鉄道アイドル伊藤桃様（東北出身）による東北復興を応援するトークショー、東北復興支援チャリティ販売等の様々な企画を通して、2000名を超える来場者に鉄道の楽しさを体験していただいた。



持続的な企業価値向上

1 貧困をなくそう



17 パートナシップで目標を達成しよう



アフリカで起業にチャレンジする若者を支援

「アフリカ起業支援コンソーシアム」にゴールド会員として協賛し、アフリカで起業する若手日本人起業家を支援。

持続的な企業価値向上



「NIPPON SIGNALグローバルチャレンジ」奨学金

埼玉県が実施する、「埼玉発世界行き」奨学金支給制度に参加し、「NIPPON SIGNAL グローバルチャレンジ」奨学金を設定。「貧困地域の開発と発展に協力する」という目標実現に向け、アフリカと南米の地域研究を行う学生の留学を支援。



(参考) 定量指標の状況

- (1) 成長性: 鉄道の大型機器更新案件やホームドアの売上増、国際事業の成長などにより、売上高は中計目標を達成し、過去最高額。
- (2) 収益性: 売上増に伴い、原価率・販売経費比率の低減などを図り、営業利益率は良化。
- (3) 効率性: 利益率の良化や自己株取得の影響等により、ROEは中計目標を達成。

経営目標(連結)

項目	2019年3月期	2020年3月期		差異 ② - ①
	実績値	21中計①	実績値②	
売上高	999億円	1,050億円	1,118億円	+68億円
海外売上高比率	10.4%	12.0%	11.4%	▲0.6pt
営業利益率	7.0%	7.0%	8.0%	+1.0pt
ROE	6.6%	7.0%	8.2%	+1.2pt
自己資本比率	59.7%	50~60%	57.7%	-



参考情報

社名	日本信号株式会社 NIPPON SIGNAL CO., LTD.	資本金	100億円
所在地	〒100-6513 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング13階	代表者	代表取締役社長 塚本 英彦
設立	1928年（昭和3年）12月27日		

注意事項

業績予想等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、これらの予想とは大きく異なる可能性があります。